

基盤教育科目「3.11と学問の不確かさ」公開授業

不可視化されゆく原発事故被害の広域性 —宮城県を事例として—

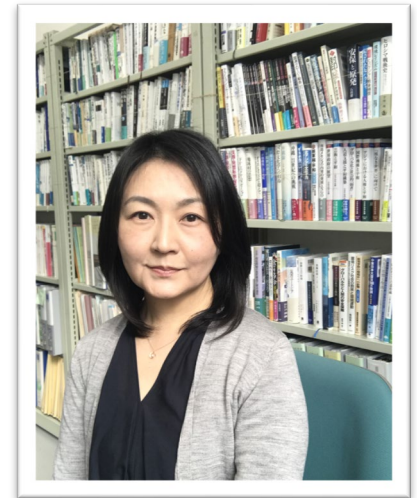
2024年7月24日（水） 16:00~17:30

会場：5B12教室 参加登録不要・先着順・15時55分以降入室可能

講師：鳴原敦子先生（東北大学大学院農学研究科）

2011年3月に発生した東京電力福島原発事故の被害は、県境を超えて東北、関東の広域に及びましたが、その被害の実態は十分に把握されず、対策も進んでいません。宮城県を事例として、原発事故被害の広域性に由来する問題について考えます。

講師プロフィール：東北大学大学院農学研究科、学術研究員。専門領域は環境社会学、平和学、開発研究。東日本大震災後は宮城県での市民的实践活動にも関わる。主な共著書に、『3.11からの平和学—「脱原子力型社会」へ向けて』（日本平和学会編、明石書店、2023年）など。



チラシはこちらのサイト
からも御覧いただけます